

人体病理病態学

《人体病理病態学講座》

担当教授



八尾 隆史

スタッフ

《先任准教授》 荒川敦

《准教授》 梶野一徳／福村由紀／林大久生／佐伯春美／齋藤剛

《助教》 岸川 さつき／朝比奈未紀



▶ 主な研究テーマ

- ① 特殊型胃癌・大腸癌・食道癌の分子病理学的解析
- ② 膵胆道癌の腫瘍発生機構の解明
- ③ 肺癌の組織型と特徴的な遺伝子異常の解析
- ④ 骨軟部腫瘍の発生・悪性度の分子病理学的解析

▶ 主な研究内容

食道原発メラノーマの原因遺伝子が 皮膚メラノーマの原因遺伝子とは異なることを発見

順天堂大学大学院医学研究科人体病理病態学では国立がん研究センターとの共同研究により、稀で非常に予後の悪い疾患である食道原発メラノーマの原因となる遺伝子変異が皮膚メラノーマの遺伝子変異とは異なっていることを明らかにしました。

順天堂医院で過去に切除された食道原発メラノーマと皮膚メラノーマに対して TOP(Todai OncoPanel) パネル検査を用いて、DNA および RNA 解析を行いました。食道原発メラノーマでは NF1 変異を最も多く認め、皮膚メラノーマで一定の頻度で検出される BRAF 変異は食道原発メラノーマでは検出されませんでした。免疫チェックポイント阻害薬である PD-L1 の治療効果と関連があるとされている腫瘍変異頻度は食道原発メラノーマにおいて皮膚メラノーマと比較して有意に低くその治療効果は期待できない症例がほとんどでしたが、一部にはその効果を期待できるものもみられました。RNA シーケンシングで、皮膚メラノーマと比較して食道原発メラノーマの特徴的な発現パターンが明らかとなりました(図)。

本成果は食道原発メラノーマの病態解明や新規治療法、新薬の開発に役立つ可能性があります。本成果は英国病理雑誌 Histopathology 誌(2020年7月8日付)に受理されました。

食道原発メラノーマの病理組織像/遺伝子発現・変異解析

